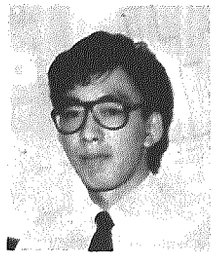
青年団体の活性化を…

第5回青年県外研修派遣事業「参加者レポート」から

派遣事業

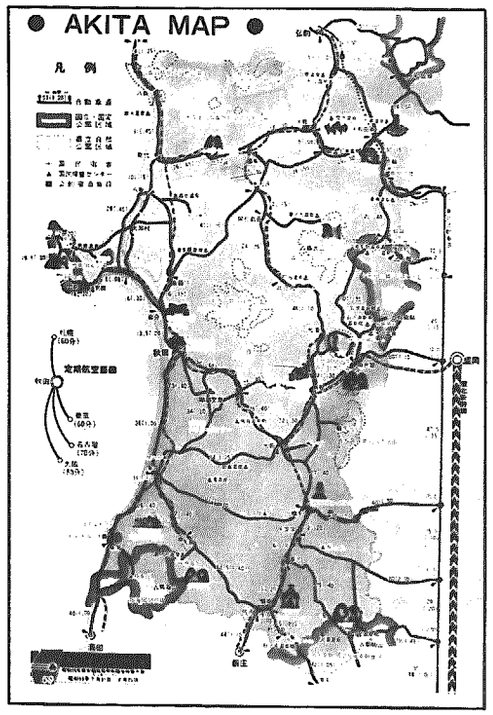


団長・荒川直樹さん（高橋／20歳）

副団長・武藤千恵子さん（岩室／20歳）

記録係・本田真寿美さん（津雲田／19歳）

生活係・石添巧さん（岩室／18歳）



はっきりした目的意識をもって…

荒川 直樹

私はこの研修に、岩室村の青年団体活動の衰退を振り返り、秋田県の青年活動がどのように行われているのか知ることを目的に参加しました。

十一日に団員四人で秋田県に向かい、秋田県の青年の家で二泊、男鹿の国民宿舎で一泊と三泊四日にわたって研修をしてきました。研修の内容としては、「秋田県の産業文化について」「秋田県の青年団体について」の講義、他団体との交流・秋田市内見学などでした。その中で私が特に関心のあった、青年団体活動について研修した内容を書いてみたいと思います。

初日にあった「秋田県の産業文化について」の講義は、講師の先生が青年団体活動を長い間やってこられたため、地理的観点からの青年団体活動についての内容が中心でした。秋田県の青年団体活動が活発な理由は、青少年層の減少により、村がつぶれるという危機感があるからだそうです。それに比べ我が岩室村では、人口が増加しているし、新潟県自体が高速交通時代になり都市化が進んで、個人の余暇の過ごし方が多様化しているため、青年団体活動は衰退の一途をたどっているのだと思います。

一方、秋田県では青年を地元に定着させるため、行政面からは、テクノ産業を中心とした地場産業の活性化を図り、働きがいのある職場をつくることに力を入れ、青年団体は、郷土芸能を取り上げた「ふるさとまつり」を催したり、東京などへの秋田産野菜の直売を行ったりして、地元をはなれていた青年たちに、ふるさとを見直してもらおうと一生懸命でした。

また、青年たちは郷土芸能を通じ、地域との密着化を図り、自分たちの存在意識も発見して活動をやってきました。もし岩室村の環境が秋田県と同様に青少年層が激減した場合、このようになれるか疑問ですが、つくづく私たちは幸せな環境にいるのだと感じました。他団体との交流においては、秋田県の青年たちに押されっぱなしで、私たちはただ耳を傾けるだけのようでした。

我が岩室村では、秋田県とは異なる問題が多くあると思います。だから、これらを見つけ出し、はっきりした目的意識を持ち、よりよい青年団体活動を進めていこうと感じました。

▲地元青年との交歓会　（青年の家で）

今年で５回目を迎えた、「岩室村青年県外研修派遣事業」が７月11日から14日まで、３泊４日の日程で秋田県で行われました。

今回の派遣団員は男子２人、女子２人の４人で、現地（秋田県）での視察研修や地元の青年らとの交歓を通して、青年団体活動の必要性と村の青年団体活動の活性化への足がかりにしよう、と意欲的に研修をしてきたようです。

この研修で得た多くの体験と出会いを今後、村の青年団体活動に活用してくれることを期待しています。

参加したみなさんから体験レポートを寄せていただきましたので、紹介します。

自分たちの住む〝ふる里〟の再認識を…

武藤千恵子

秋田県での三泊四日の研修旅行――振り返ってみると、色々なことがありました。その中でも深く心に残っているのは、たくさんの人たちとの出会いでした。

大潟村へ行くときに乗ったタクシーの運転手さんから聞いた「中部日本海沖地震」の生々しい体験談や青年の家の鈴木先生からの秋田のすばらしい朝の景色についてなど、多くの人の暖かい心遣いで、とても有意義な研修旅行を送ることができました。そして今回のメインテーマである秋田県の青年団の皆さんとの交流会が、青年の家の図らいで持てたということです。交流会の話し合いでは、岩室の青年団活動を活発にするためには、どうしたらよいか、というたくさんのアドバスがありました。さらに、畑沢先生の講義の中に、「秋田の青年団活動が盛んになったのは、ふる里を離れて都会へ出て行く若者が多く、それを食い止めるために青年たちが立ち上がり、ふる里を見直そうという運動がきっかけ――」という話があり、伝統的な村祭りを青年たちが中心となり復活させ、老人から子供たちまでが楽しめる祭りにして、村単位で祭りが盛んだそうです。また、花いっぱい運動やクリーンアップ作戦など、青年が中心になり街をきれいにする活動をして、青年たちがふる里を盛り上げています。

秋田市で見学した生涯教育センターでは、生涯学習ができるというすばらしい施設でした。たくさんの資料や近代的な設備、専門の相談員がいて、あらゆる分野の学習が出来るのです。そのほかにも多くの公共施設が集中して立ち並んでいました。どの建物も工夫されていて、とてもきれいで市民の利用も多いようです。

今回の県外研修で、私たちと同じ世代の人たちが中心となって、色々なことを計画し、実行し、自分たちの住む〝ふる里〟をより良いものにしよう、と努力している姿に心を打たれました。そして、改めて自分を見直し、反省することができました。今回の研修が生かせるように、努力したいと思います。

▲青年団体活動について熱心な交歓が（青年の家で）